

インクルーシブな作業療法教育

Position Statement on Inclusive Occupational Therapy Education 2008

はじめに

障害者の機会平等の基準は、国際連合(国連)の委員会で、48回の会議を経て、1993年12月20日に採択された。この文書は、障害者が完全に自分の生活、コミュニティ、世界に参加することができることを意図するという見方を明確に描き出すものである。平等な参加のための一つの目標は、この文書で説明する「教育」である。障害をもって生活する個人は、教育のすべてのレベルに参加できるべきだと明確に宣言される。特に注目したいのは障害をもつ成人、特に女性である。作業療法における教育プログラムへのアクセスを確実にすることは、達成すべき重要な目標であり、会員国がこの目的を理解し主張していくことを促進するためにWFOTが関与することは重要だと言いたい。この声明書は、世界中の会員国の専門職準備におけるインクルーシブな作業療法教育という原則を促進し支持していくために、WFOTの決意を強調するものである。

WFOTのポジション

WFOTは、インクルーシブ教育の権利は最高権であり交渉の余地がないものであると信ずる。作業療法は、一人ひとりが潜在力を持ち、生活においての意味を育み、能力を主張していくことができるよう努力する専門職である。それゆえに、作業療法教育プログラムが障害をもつ学生にとってアクセス可能であることは肝要であり、この目標を達成するために採用する方法は他者が見習うモデルとなる。

ポジションの実質的論拠

この文書は、決議48/96で表明されている国連のポジションを支持するものとなる。また、実践家、教育者、研究者、代弁者といった複数の役割を通して、すべての市民のための可能化と結び付きを促進する、作業療法専門職としての命令を示すことにもなる。国連は、「インクルーシブな質の高い教育は、すべての学習者の基本的学習ニーズと豊かな生活を充足する質の高い教育という権利に基づいている。特に虚弱な隅に追いやられた集団に焦点を当て、すべての個人の完全な潜在力を発達させることを探るものである。インクルーシブな質の高い教育の最終目標は、すべての差別を終わらせ、社会の凝集性を育てることである。」

(<http://portal.unesco.org/education/en/ev.php-URL>)

社会にとってのポジションの重要性

障害者を作業療法教育プログラムに含むことができるようになれば、社会は多くの機会に直面することになる。障害のある作業療法士を雇用したり、障害者のより完全な統合を隔てる問題への気づきが高まり、完全なるインクルーシブな社会への実践家の決意が強くなる。

作業療法にとってのポジションの重要性

障害をもつ学習者へのオープンさとアクセシビリティがひとたび認識されると、作業療法専門職は、そのことから成長していくだろう。障害を持ちながら生活する個人を、作業療法教育プログラムに受け入れることによって、専門職の哲学が示され、学生たちはモデルとなり、後に続く人たちの例となる。これは真に、作業療法の使命を全うすることになる。

チャレンジ

過去2年間に渡り、世界の作業療法教育プログラムが、どれほど利用可能でインクルーシブかを理解するために調査をした。この調査結果は2008年に発表される。善意とこの理想へのさまざまな程度の決意があるにもかかわらず、重要なチャレンジがあり、共通に直面する問題があった。教育のアクセシビリティに関して政府の方針が国によって非常に多様であった。地域や地方行政によっても違ったし、既存の規則の解釈もさまざまで、組織は法律を支持する方針を策定していた。しかしまだ、リーダーシップの利用可能な資源や優先順位による制約があり、個々の学校やプログラムは、方針の複雑さを解きほぐそうと試みていた。一方、安全で、知識のある、有能な実践家を卒業させるという必要性に対しては十分な決意をもっていた。

ストラテジー

作業療法士は、専門職準備を含むインクルーシブな教育の全側面を推進する上でのリーダーとなるべき

<https://www.wfot.org/resources/inclusive-occupational-therapy-education>

(2019年11月22日 吉川ひろみ・訳)

である。私たちの教育プログラムが障害を持ちながら生活する学習者を歓迎しサポートすることを確実にするために、世界中の作業療法士が意識を高め、決意を持つ明確な必要性がある。鋭敏な意識と理解の促進のために会員を援助するような行動の枠組みが開発されるだろう。WFOT を通してこの枠組みの適用を共有することは、必要な変化を主張し成し遂げるうえで、相互にサポートする力強い場を提供するだろう。より大きなシステムに影響を与える努力ができるよう、会員が使うことのできる、主張に役立つ材料が開発されるだろう。

教育

作業療法実践家の準備のための利用可能でオープンな教育文化の発展と維持を可能にするためには、すべてのレベルでの教育のニーズがある。

結論

21世紀はインクルージョンの世紀である。作業療法は、自分たちの専門職のビジョンを広げていき、方針を打ち立てていくリーダーシップの役割を積極的に担っていく。方針とは、コミュニティでの生活のすべての側面において、障害のある市民すべてのインクルージョンを完全にサポートすることである。この声明書はこの決意を強く主張する。

この文書は、2008年にリュブリャナでのWFOT会議で採択された。